

授業科目	文化人類学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	EN31303J		
開講年次	3	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-3 DP5-1			
担当教員	永吉 守							
授業概要	<p>文化人類学は、文化の側面から、その多様性と共通点を通して、人間とは何かを探る学問です。特にグローバル化・グローカリゼーションが進む現代では、我々とは異なる文化を持つ人々と日常的に接する状況となっており、文化の違いについて、分断や衝突ではなくいかに共生する方向で折り合っていくか、ということが一人一人に求められています。</p> <p>この講義では、現代社会においていかに異文化理解と多文化共生を図っていくかについて、基本的視座・理論・態度を習得することを目的とします。</p> <p>授業スタイルは講義が中心となりますが、可能な限り写真・動画を含めた映像資料を使用するのみならず、場合によっては外部講師(未定)の登場も想定しています。また、ワークショップやディスカッションおよび発表を実施したいと考えており、その形式は柔軟に対応しますので、積極的な発言を期待します。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化や人類の多様性と共通性に関する情報について、他者の立場からも含め、客観的に判断できる思考力を持つ。</li> <li>・異文化を持つ人々と共生する、という多文化共生のあり方について、自ら考えることができる。</li> <li>・異文化理解や多文化共生に関する社会的問題をどのように解決すべきか考える能力を養う。</li> <li>・上記のことを達成するための基礎知識を意欲的に学ぶ。</li> </ul>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	85	0	15	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			15		1		16	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10		1		11	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			15		2		17	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)			20		5		25	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)			10		3		13	
技能・表現 (DP5-1)			15		3		18	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
文化に関する基礎知識・理論・事例を深く理解し、説明することができる。また、自らのこととして異文化理解と多文化共生を考え、日常生活の現象との連関についての確に文章で説明し、解決を模索することができる。				文化に関する基礎知識・理論・事例を理解し、おおよそ説明することができる。また、自らのこととして異文化理解を多文化共生を考え、日常生活の現象との連関に気づき、自分の考えを説明することができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	イントロダクション、文化人類学とその周辺学問、文化人類学の歴史	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
2	文化人類学の目的・視点・方法とフィールドワーク・エスノグラフィ	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
3	「社会」の概念・「文化」の概念	講義	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
4	文化相対主義と自民族中心主義	講義	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
5	ことば・衣食住・生業と文化	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
6	「社会」や「文化」の単位(民族集団・エスニシティ・地域・国家)	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
7	家族・親族組織、出自集団、婚姻	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
8	ジェンダー・SOGI の諸相と文化人類学 その1	講義・ワーク	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
9	ジェンダー・SOGI の諸相と文化人類学 その2	講義	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
10	信仰、宗教、儀礼－死者儀礼と成人儀礼の事例から－	講義	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
11	グローバリゼーションと異文化理解－海外旅行の事例から－	講義	講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
12	炭鉱社会の文化人類学(1)－筑豊の女性労働－	講義	特定の事例について、自分のことに引き付けて質問・感想を書く、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
13	炭鉱社会の文化人類学(2)－三池炭鉱のフィールドワークと社会調査実習－	講義・ワーク	特定の事例について、自分のことに引き付けて質問・感想を書く、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
14	多文化共生への道(1)－在日コリアン・ユンヌンチュー	講義・ワーク	特定の事例について、自分のことに引き付けて質問・感想を書く、講義内容を復習し、適宜次回のテーマについて調べ予習すること	60
15	多文化共生への道(2)－定住外国人－、まとめ	講義・ワーク	講義内容を復習	60
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	授業の内容を踏まえて、発表を行い、授業内容を理解し、自らの意見を簡潔に伝達する能力を望む。積極的に映像視聴、ちょっとしたワークをする予定。			
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房(2010年(第2版)、2006年(初版)) 波平恵美子(編)『文化人類学』(カレッジ版)(2021年(第4版)) そのほか講義中に紹介。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	これまで、身近で体験した異文化理解の場면을整理するのが望ましい。また、発表に向けて、授業時間以外に準備する必要がある。 日本や外国で起こる社会的な事件や現象について興味を持って取り組むこと。わからないことがあったら、積極的に直接またはWEBフォーム等で質問すると理解が深まると思う。 なお、シラバス上で見る限り「異文化間コミュニケーション論」や「比較文化と国際理解」といった授業は本授業の理解に役立つと思われるが、視点や考え方などが異なる部分もあり同一の主旨ではないので受講およびレポート作成の際には注意が必要。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	期末レポートとワークや講義に対する質問・感想(レポート外の提出物)の積極的な提出(意欲・態度・表現等)によって、総合的に評価。なお、質問・感想については、質問欄に対する回答を次回の講義資料に添付してフィードバックする。期末レポートについては、個別にフィードバックはせず、15回目に全体的な講評を行う。			

